

水平マイクロビュレット 1型

取扱説明書

[概要]

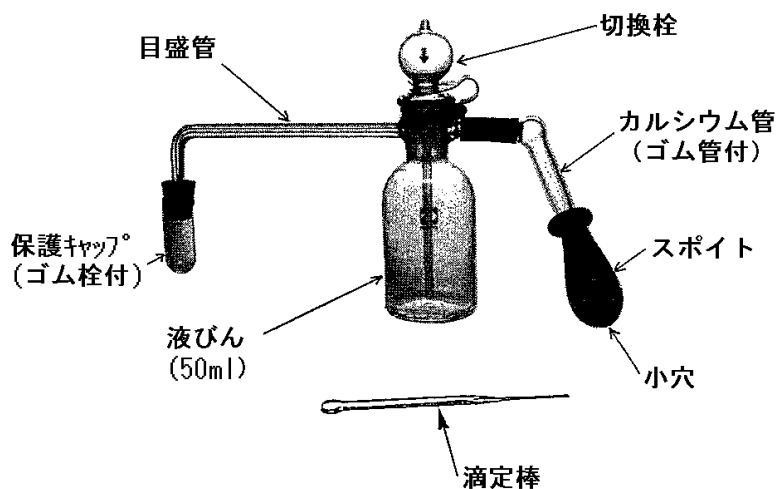
水平マイクロビュレットは極微量の容量分析等で、指示薬が希釈され滴定の終点が不明瞭なときの比色分析や、高周波滴定等で添加すべき溶液の液量を最低限に止めたいとき等小容量での容量分析に用いられます。

垂直式のビュレットのように液高差による滴下状態に変化無く、高精度に操作できる水平タイプのマイクロビュレットです。

[仕様]

品 名	水平マイクロビュレット 1型
目 盛 範 囲	0～0.15 mL
最 小 目 盛	0.002 mL
寸 法	210 (W) × 45 (D) × 135 (H) mm
質 量	約 100 g
品 目 コ ー ド	022810-1

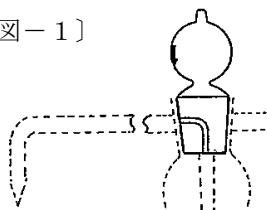
[構成]



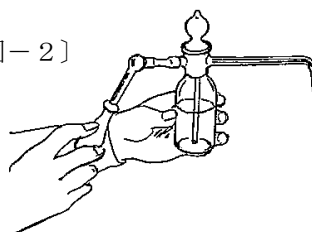
〔 使用方法 〕

- (1) 液びんに試薬を入れます。
- (2) 保護キャップを先管に注意しながら外します。
- (3) 切換栓を〔図－1〕の位置にし、〔図－2〕のように左手で液びん、右手でスポイトの小穴をふさぎながら押しますと、目盛管に試料が押し上げられて来ます。

〔図－1〕

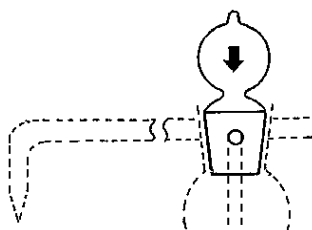


〔図－2〕



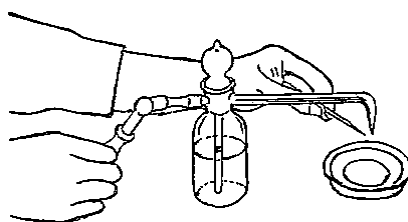
- (4) 目盛管の先端まで液が押し上げられたら、スポイトより手を放し、切換栓の矢印が〔図－3〕のように手前に来るように栓を90°回します。

〔図－3〕



- (5) 栓を〔図－3〕の位置に回したら、スポイトの小穴をふさぎながら、ゆっくりスポイトを指で押しますと、目盛管内の液が押出されて、先管より滴下します。所定の容量を滴下してください。
- (6) 目盛管先端の先管に水滴が付いて、滴下しない場合、付属の滴定棒で〔図－4〕のように滴定棒に液を伝わらせて、水滴を落とし込みます。

〔図－4〕



※ 滴下の際、目盛管の液がサイフォンにより、引っ張られる状態で滴下します。
これを防ぐには、滴定棒で滴下する直前の液を素早く切る感じで払い採ります。

07. 10. 26H(02)

 **柴田科学株式会社**

営業所 東京・大阪・名古屋・福岡・仙台

カスタマーサポートセンター(製品の技術的サポート専用)

 0120-228-766 FAX 048-933-1590

<http://www.sibata.co.jp>